

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調査

様式1

No. 0502031

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武町重度身体障害者ハイヤー料金助成要綱
基本施策	9 障がい者支援の充実	事業優先度	B	
単位施策	1 自立支援対策の推進	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	重度身体障害者ハイヤー料金助成事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	乗車料金割引券の利用率		#N/A	
事業目標	全対象者への交通費助成	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	2	関係例規・法令名	1 ⇒	
		関係個別計画名		

全体計画		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	重度身体障害者の通院や日常生活におけるハイヤーの利用に際して町要綱に基づき助成券を交付する。	重度身体障害者ハイヤー料金扶助	重度身体障害者ハイヤー料金扶助	重度身体障害者ハイヤー料金扶助	重度身体障害者ハイヤー料金扶助	重度身体障害者ハイヤー料金扶助	
	事業費(千円)	3,000	600	600	600	600	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	3,000	600	600	600	600		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,461	490	495	473	606	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	397				224	
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	2,064	490	495	473	382		
関 連 事 項	(特定財源の詳細等)	(実施内容等) 下肢障害者、体幹機能障害者、視覚障害者(児)がハイヤーを利用する場合、基本料金を助成 利用888枚×530円 (33人) 交付1,419枚	(実施内容等) 下肢障害者、体幹機能障害者、視覚障害者(児)がハイヤーを利用する場合、基本料金を助成 利用898枚×530円 (32人) 交付1,376枚	(実施内容等) 下肢障害者、体幹機能障害者、視覚障害者(児)がハイヤーを利用する場合、基本料金を助成 利用856枚×530円 (32人) 交付1,376枚	(実施内容等) 下肢障害者、体幹機能障害者、視覚障害者(児)がハイヤーを利用する場合、基本料金を助成 利用1,108枚×530円 (34人) 交付1,462枚	(実施内容等) 下肢障害者、体幹機能障害者、視覚障害者(児)がハイヤーを利用する場合、基本料金を助成 利用714枚×530円 (29人) 交付1,247枚	
	【評価・実績】	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	50人	50人	全対象者への交通費助成	全対象者への交通費助成	全対象者への交通費助成
		年度達成率	82%	83%	79%	101%	66%
		全体達成率	16%	33%	49%	69%	82%

事業名	重度身体障害者ハイヤー料金助成事業	評価者	管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎佳之
		評価者	作成者 職氏名	社会福祉係長	磯田昭次

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	重度心身障がい者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	乗車料金割引券の利用率								
【抱える課題やニーズは】	障がい者の自立を求める意識が強まる一方で障がい者を取り巻く環境は未だ不利なものが多く、改善が求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	重度心身障がい者の外出機会を確保することで地域活動や社会参加の促進を目指す。	① 利用された割引券の枚数 ÷ 交付した割引券の枚数 = 割引券の利用率	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>平成24年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1247枚</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>714枚</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>57.3%</td> </tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	1247枚	実績値	714枚	達成度	57.3%
目標年度	平成24年度										
目標値	1247枚										
実績値	714枚										
達成度	57.3%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	重度心身障がい者の社会参加、外出機会が確保されるとともに、地域でいきいきと安心して暮らせる生活環境を整える。	②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>#DIV/0!%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0!%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0!%										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成券の交付	対象者からの申請に基づき、審査を行い、交通費助成券を交付した。									
	乗車料金割引券利用分の支払い	乗車料金割引券利用分(基本料金相当)を第一ハイヤー株式会社へ支払った。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	障がい者の手近な「足」として、ハイヤーによる移動手段は利便性が高く、障がいを持つ方の外出しようとするきっかけ提供や移動支援のためにも、本事業を維持することは必要性が高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部/一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことで、障がい者の外出時における利便性が向上された。しかし、交付枚数と利用枚数に開きがあることから、割引券を利用しやすい方法の検討が必要である。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	現にハイヤーの利用を必要とする、身体障害者手帳所持者(下肢障害等)や療育手帳所持者に交付するものであり、外出する際は手近な交通手段としてハイヤーの必要性は高いが、限りある範囲での助成に努めていく。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

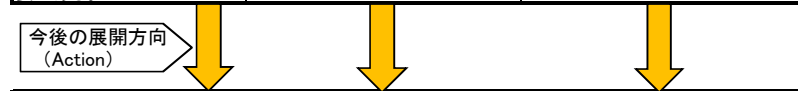
公平	判断の理由	必要な条件を具備していれば、割引券の交付を受けることができるので公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
障がい者等が地域で暮らしていくための有効な手段と思われ、生活と福祉の向上を図るうえで計画どおり事業を進めることが適当であるが、利用率が低いため利用しやすい方法の検討が必要である。		



継続/現状維持	継続/現状維持	
今後も助成を継続することで、障がい者にとって住みよい環境の提供と、安心した地域生活に繋がることから、継続実施が適当であるが、利用率向上のための検討も必要である。		

※展開方向の区分